

教 務 部

部長： 大西 研作 副部長： 菊井 浩之

(1) 今年度の目標

①教育課程の効果的な運用と編成

生徒の適性や進路目標をふまえ、あわせて豊かな情操を養うことに留意して教育課程を効果的に運用する。

②学習意欲と進路意識の高揚

授業でのガイダンス、「テーマプロジェクト(総合的な学習の時間)」での外部講師による講演会や大学訪問が、生徒の学習意欲と進路意識の高揚につながるようにする。

③情報管理の適正化

個人情報等の適正な管理をする。また、情報機器等の使用に関する利便性を高めて業務の効率化が図られるような仕組み作りに取り組む。

④新校舎での対応

新校舎での学校行事などが円滑に行えるよう、各分掌等と連携を図る。

⑤校務支援システムへの対応

次年度からの校務支援システム導入に向けて準備を進める。

(2) 主な取り組みの計画

①すべての教科について年度途中に教育課程の実施状況を確認することにより適切な運用を図る。本校生の進路志望に対応するよう、教育課程についてさらに研究する。

②1年生に対し、「授業概要一覧表」(シラバス)に示されている学習計画を年間計画としてまとめて配布することにより、各科目の学習進度を確認しやすくさせる。1年生のコース選択説明が行われる時期に、2年用のシラバスの一部を提示し、コース選択の参考とする。

外部講師による講演会及び大学訪問の内容及び時期が適切であったかどうかを、関係学年団と連携しながら評価する。

③情報管理のシステムを確立する。マニュアル等をわかりやすく工夫して、職員の情報機器活用環境をよりよく整える。

④新校舎での学校行事、時間割を教務主任・教育企画係・学校行事係・時間割係を中心に運営する。

⑤次年度からの校務支援システムが円滑に導入できるよう、情報管理係を中心に他分掌、各学年団と連携を図りながら準備を進める。

(3) 成 果

①全学年新教育課程(3年の一部の教科は旧のまま)実施となり、教育課程のより効果的な、かつ実質的な運用を模索し、実施した。

②年度初めに「授業概要一覧表」(シラバス)を配布し、最初の授業で説明することにより年間計画を理解させることができた。1年生の大学訪問では地元の香川大学、徳島大学に行くことにより進路意識を高揚させることができた。

③新校舎へ移転した後のLANの整備・運営は滞りなく行えた。また安定した情報機器の利用ができた。

④各分掌、教務の各係と連携することにより、新校舎での様々な学校行事、時間割を円滑に運営することができた。

⑤情報管理係を中心に各学年団と連携をとりながら校務支援システム導入の準備ができた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ①引き続き新教育課程と大学入試の形態について進路指導部と緊密に連携を取っていく。特に文系から看護系への進学の際に、各大学に必要な入試科目(理科)について変更があるかどうか、あるとすればその時期がいつであるかを注視する必要がある。さらに平成31年度、平成32年度から導入予定の「高等学校基礎学力テスト」、「大学入学希望者学力評価テスト」の動向について注視していく必要がある。
- ②1年生のコース選択説明が行われる時期に、2年用のシラバスの一部を提示することが十分できなかった。1年生の大学訪問では香川大学医学部の日程が合わずに医学部については徳島大学に訪問した。ただその結果香川大学にはない歯学部、薬学部を訪問することができた。訪問先を地元大学である香川大学に統一するか、一部他大学も含めるか検討する必要がある。
- ③個人情報により適正に管理するために、人為的なミス（データの入力ミス、集計ミス等）が起こらないようなチェック体制を整える必要がある。
- ④新校舎での様々な活動がさらに円滑に運営できるように、事務も含めて各部署間の連携を密にする必要がある。
- ⑤準備段階ではわからなかった（気が付かなかった）部分について、来年度実際に校務支援システムを運用していく中で対応していく。